

平成27年3月期 第70期 業績概要 第1四半期

桂川電機株式会社

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、政府による金融、経済対策により、企業収益の改善が見られ緩やかな回復基調が続いているものの、消費税率引上げに伴う駆け込み需要とその反動の影響がみられ、海外景気の下振れリスクなどが引き続き残ることから、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

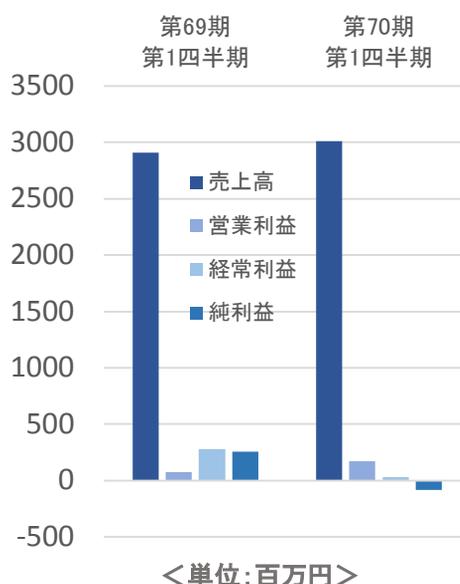
こうした中、当社グループにおきましては、販売面では、北米、ヨーロッパ、アジア、日本といった各市場において販売活動の強化を行ってまいりました。また、開発及び生産面では、原価低減に努めてまいりました。

この結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の連結売上高は、30億11百万円と前年同四半期の29億9百万円に比べて1億1百万円の増収となり、営業利益は、1億70百万円の利益（前年同四半期は73百万円の利益）、経常利益は為替差損1億52百万円を計上したことにより、28百万円の利益（前年同四半期は2億77百万円の利益）、四半期純損益は84百万円の損失（前年同四半期は2億55百万円の利益）となりました。

<単位:百万円>

項目	第69期 第1四半期	第70期 第1四半期	前年同期 増減額
売上高	2,909	3,011	101
営業利益	73	170	97
経常利益	277	28	△249
四半期 純利益	255	△84	△339

連結業績概況



事業別の業績

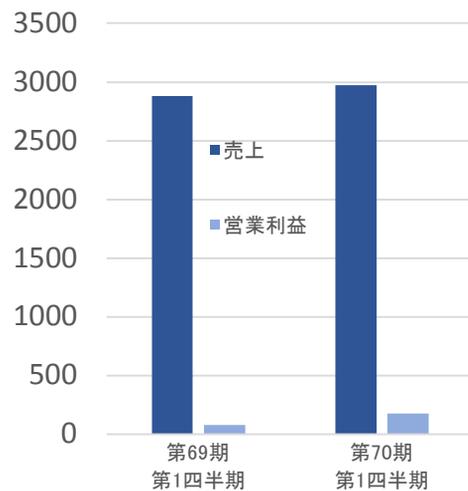
画像情報機器事業

画像情報機器事業の当第1四半期の連結売上高は、前年同四半期に比べ94百万円増収の29億75百万円（前年同四半期は28億80百万円）となり、営業利益は1億75百万円の利益（前年同四半期は80百万円の利益）となりました。

- ・市場競争が一段と激化する中、売上高は前年同期比でやや増収
- ・北米市場を中心に普及機モデルの伸び
- ・低価格帯モデルは、積極的な需要喚起を図る

<単位:百万円>

	第69期 第1四半期	第70期 第1四半期
売上	2,880	2,975
営業利益	80	175



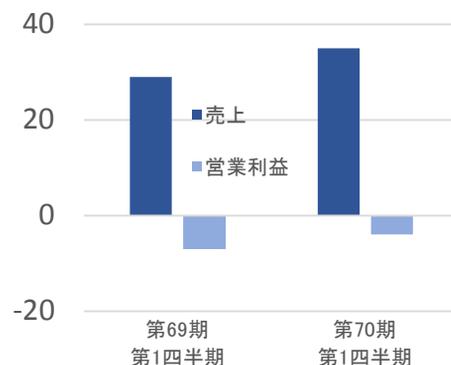
その他事業

その他の事業のモーションデバイス事業の当第1四半期の売上高は35百万円（前年同四半期は29百万円）で、営業利益は4百万円の損失（前年同四半期は7百万円の損失）となりました。

- ・モーションデバイス事業の販路拡大を継続
- ・マイクロモータ等を主体に顧客ニーズをキャッチアップした製品開発・品質向上に注力

<単位:百万円>

	第69期 第1四半期	第70期 第1四半期
売上	29	35
営業利益	△7	△4



営業外損益

営業外損益は為替差損を1億52百万円計上したことにより、1億42百万円の損失となりました。

<単位:百万円>

	第69期 第1四半期	第70期 第1四半期
営業外収益合計	210	22
営業外費用合計	6	164
営業外損益	204	△142



※取引通貨レートの数値は、各決算期末日のTTMLレート
【出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティング】

今期の予想

当社グループは、国内・海外の事業の選択と集中をさらに進め、需要に合わせた適切な機種選択を推奨する事により、カラー及びモノクロの各機種、コントローラー機能を組み合わせたトータルソリューションによるシステム販売を強化し、安定的で収益性の高い事業の維持を確実にいき、今後成長が見込める分野や市場に向けた新規ビジネスの開発・進出も積極的に推進してまいります。また、欧州の再編を進め、より安定した組織体制と事業の一体化も構築してまいります。その他将来に向けた必要な投資も行き、成長性を高め、まい進してまいります。

連結業績予想は、前提となる為替レートを1ドル98円、1ユーロ140円と想定して、売上高110億円、営業利益1億30百万円、経常利益1億50百万円、当期純利益50百万円を予想しております。直近に公表されている業績予想からの修正事項はありません。

<単位:百万円>

	第70期 第2四半期 (累計)	第70期 通期
売上高	5,500	11,000
営業利益	50	130
経常利益	60	150
当期純利益	20	50